



月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

2022

3

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 2月ステイホーム句会	19
川柳吟行会「ぼ」	23
十和田たてがみ川柳会 1月句会報	27
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	18
Infomation	29～

カンテラ

むかし

青森市で新型コロナウイルス感染が急拡大したことから、当柳社の例月句会会場である青森駅前の「アウガ」5階が1月20日から2月28日まで休館となった。その休館が延長される懸念もあるので会場確保の観点から2月と3月の例月句会をステイホーム句会とせざるを得なかった。

そして、私は家に引きこもっている。

雪掻き以外することがないのだから川柳を作ればいいと思うのだが、それが、ぼんやりしているばかりで全くと言っていいほど作れない。

ところで、みなさんはいかがお過ごしでしょうか。

それでは、カンテラに明かりを灯しましょう。

A群

五線譜に私の春を弾ませて

村上てる

シヨボクレタ影がノロノロついてくる 村上あつこ
 幸せはちくわの穴の向こうです。 村井規子
 体内の悪が成長して困る 石橋芳山
 ママはさる娘はうまで婆はとら 葉 閑女
 良い人でいたかったのに降る糞 ひとは
 尻尾まで笑顔を詰めてワルでいる ままこ
 血液検査から咬きがポロリ 三浦蒼鬼
 着膨れて身も蓋も無い裸身かな 吉田州花
 デパ地下のおりんごおネギお利口そう 辻井洋子
 きみの妖しさに感光してしまっ きたらぎ彼句書
 約束の最中の皮がまだ来ない 安藤なみ
 何様のつもりあごひげのびてゆく 鳴海賢治
 とりあえず自己満足でいいじゃない まみどり
 アナログで行こう鶴嘴一丁で 田久保亜蘭

田久保亜蘭さん、「鶴嘴」を振り回せるの？「鶴嘴」は、

広辞苑に『つる・はし【鶴嘴】堅い土砂などを掘削するのに用いる工具。鍬（くわ）の一種で、鶴のくちばしのようなとがった鉄製の刃に柄をつけたもの。』とあります。亜蘭さんにピッタリの道具だけど、宝探してもするのかな？

B群

舌先で解くサクランボの暗号

須藤しんのすけ

あの人が気になるドアの半開き

瀧尻善英

謎解きは曖昧なままはる湿布

熊谷冬鼓

絆創膏はがすわ曲がりきれないの

宮井いずみ

線いっぼん世界の端に引いてみる

ひとり静

大げさに笑って寒を切り抜ける

斎藤泰子

冬至来て濃くなる闇のジャスミン茶

吉見恵子

ラッキョウは身ぐるみ剥がされ僕になる

芝岡かんえもん

音もなく去年の蝶が飛んでくる

柳本恵子

雪雪雪吠えているのは誰なんだ

吉田吹喜

吉田吹喜さん、今冬の雪ヤタラ多いよね。吹雪になる

日も多いし…。このままだとわが家は雪に埋まってしまいます。ところでこの句、誰かが吠えているので雪になるってこと？雪が余りに多いので誰かが吠えているってこと？ま、どっちでもいいか。あ、また吹雪いてる！吠えたくなくて来たぞ〜！

C群

親兄弟を煮沸してから椀に盛る

夏草ぶぶき

花びらになって浮いている時間帯

米山明日歌

フキの花咲かせて・・・そこは備考欄

守田啓子

ストローで水平線を持ち上げる

岩根彰子

えへらえへらと熾になる飯粒のかたまり

奈良一艘

夏草ぶぶきさん、「煮沸」って煮え立たせることだよ。生きている人間を煮沸しちゃだめですよ！「煮沸消毒」とかっていうから「親兄弟」を消毒するのかな？コロナウイルスに感染した？で、その後「椀に盛る」ってことは、食べちゃうってことだよな…。「親兄弟」を消毒して自分の力にしてしまうってことかもね。にしても恐ろしい比喩。

米山明日歌さんは「花びら」になれるのですか…。どんな色で、どんな大きさの「花びら」でしょう。「花びら」を広辞苑で引くと『はな・びら【花弁・花片】①花弁（かべん）。特に、桜の花弁。②花弁餅（はなびらもち）の略。〔日葡辞書〕』と出てきます。明日歌さんは、桜の花びら？それともお餅？お餅だと浮かばないからたぶん桜の花びらだね。あれ？今気がついたけど、何に浮いているんだっけ？職場や学校に馴染めなくて浮いちゃってるってのもあるけど、水かな？それとも宙に浮いているのかな？面白さから言えば空中に浮いていて欲しいけど…。で、どんなときそうなるの？

守田啓子さん、「・・・」はいわゆる三点リーダーで、その次は一字空けだよ。三点リーダーは普通「…」のように1文字分に点が3つだけと3文字分使ってるのか…。三点リーダーをネットで調べたら「特殊記号の一種で、省略の意味を持つ記号として、あるいは、視線を導かせる点線などとして、用いられる。」とありました。この句の場合「備考欄」へ読者の視線を導いているんだね。ということ、啓子さんの「備考欄」には「フキの花」が咲いている。

「フキの花」って何だ？と思うけどフキノトウだよ。フキノトウってかわいいけど苦みがあるんだよね…。

岩根彰子さん、凄いいことが出来るんですね。私が知らないだけで、もしかしたら彰子さんは引田天功の上を行く超有名イリュージョニストだったりしてね…。これからも「無人駅」でいろんなイリュージョンを見せてください。無料でよろしくお願いします。

奈良一艘さん、「えへらえへら」って津軽弁だとばかり思ってたけど違うんだね（汗）広辞苑に『えへら・えへら】おかしくもない事にしまりなく笑うさま。「人を馬鹿にしたように」と笑う」「するのはやめる』と出ています。「熾」は『①赤くおこった炭火。おきび。②薪（まき）が燃えて炭のようになったもの。（広辞苑）』で「燠」とも書きますね。つまり、一艘さんは元々香りと粘りの強いブランド物の「飯粒」なんだけど、何かがあると笑いながら燃え盛って「おきび」になってしまっただこと。近寄るとヤケドするな…。以後気をつけなくちゃ（笑）この句の破調も「熾」の一つかもね。

おかじょうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅2月月間賞

鬼だつて泣きたい時があるんだよ

村上あつこ

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

責任の所在ながいも擦ってみる
猛省をして凍み豆腐になるところ
フキの花咲かせて・・・そこは備考欄
状況を見ながら伸びる水仙の芽
凍裂のあたし地吹雪冬の雷

先月号のお気に入り
ああ言えばこう言う新蕎麦のクセに 奈良一艘
あら？一艘さんひがみっぽくなりました？

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

菜の花の黄からはじめることにする
踏まれても踏まれても空みるタンポポ
音もなく去年の蝶が飛んでくる
桜散るまでブランコ押しつづけ
思い出し笑いのように咲くサクラ

先月号のお気に入り
物の怪も泣き虫も棲む胸の底 齋藤泰子
実は私の胸にも……

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

ドライなだけ 萎れたなんて言わないで
二択なのにハズレのほうを引きたがる
雪雪雪吠えているのは誰なんだ
一夜明けて無かったことにされる雪
オミクロン何を数えて過ごそうか

先月号のお気に入り
日常をちよつと豊かに虹仰ぐ 齋藤泰子
ちよつと豊かになっていいですねえ。それが虹で叶えられ
るのがいいですねえ。

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

過去ばかり見つめる人へ落葉積もる
冬至来て濃くなる闇のジャスマン茶
眉を描く亡母が鏡に誕生日
新株の市中感染せりなずな
降る雪や肉焼く焔 縄文人

先月号のお気に入り

葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

三月だ甘納豆を呼びたまえ
ママはさる娘はうまで婆はとら
佐保姫か五黄の寅か彼岸西風
種明しすれば名もなき媼です
春の窓甘納豆もご一緒に

先月号のお気に入り

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

着脹れて身も蓋も無い裸身かな
着ても脱いでも別人にはならぬ
明日なんか要らぬ桜はもう見ない
進む気になれば明日も青信号
ポヤポヤと死にそうな花育て寒

先月号のお気に入り
妻みなら見せてあげます何度でも まきこ
では月に一度の約束で

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

敵に回さぬようにサイクロン掃除機
素数的きみへの憧れは続く
シンキングタイム宙に浮かぶわたし
「確かに」の蔓延るマチです、たしかに
全くもって動じない猫脚のイス

先月号のお気に入り
待つことが祈りの一つだとしたら まみどり
「いつまでも待っています」と言いたいです。

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

ずぶずぶの提案ばかりでる真昼
粗みじんだけでここまでできてしまう
花びらになつて浮いてる時間帯
瓶の底みだらになつた水の声
折り跡は鶴の匂いの残る紙

先月号のお気に入り
ああ言えばこう言う新蕎麦のクセに 奈良一艘
新蕎麦のクセにですか。新蕎麦だからかしら。どっちに
しても生意気だ。

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

猛吹雪だから行くんだ初詣
遅くくる賀状やっぱりあの人か
間がいいねちようど噂をしてたところ
これから売り時ですよ寒立菜
ノーマーク楽に生きてるジャツパ汁

先月号のお気に入り
ああ言えばこう言う新蕎麦のクセに 奈良一艘
私もむかくしむかし、そんな新蕎麦だったような…(汗)。

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

ドストエフスキーが晴れてくれたなら
約束の最中の皮がまだ来ない
脇の下から黒いダイヤが漏れる
月山と鯨と過ごすひとりの夜
ラジオ体操第五を創作しましたが

先月号のお気に入り
ずっと外みている猫の尾はふたつ 宮井いずみ
とても美しい句です。

上村夢香【うえむらゆめか・山口県岩国市】

オオタニサン我が家にひとりいてほしい
地酒の味だんだん沁みる左遷地で
ステイホームアイメークだけ欠かせない
道半ば転び転んでまた転ぶ
正直を貫きそつと消えた人

先月号のお気に入り
感動は暮らしの中にある・・・きつと 村井規子
近すぎて案外気づかないんですね

きさらぎ彼句吾【きさらぎあきあ・青森県弘前市】

本心を言えば柘榴の実が裂ける
きみの妖しさに感光してしまふ
優しさに足を垂らしてから猫背
きみまでは永遠嘘までは半歩
秋風吹き込まれ紙風船ぐしやり

先月号のお気に入り
指先から声が漏れ出ていたなんて 四ツ屋いずみ
気づきましたか。なかなか「自分」には気づかないものです。

石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

面倒なマトリョーシカの過包装
コインサラダのコーンだけ食べる
納豆とオクラが絡みつく話
体内の悪が成長して困る
沈黙を這い出る炬燵から鯨

先月号のお気に入り
愚妻とはなんて気ままでお気楽で ひとほ
開き直ってのお言葉、まるつきり我が家の奥様。ふてぶ
てしい・・・です。

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

ブラジャーの紐見せ合っているバーコード
ハンバーグ崩す姐さんの水掻き
感動をふかふかトイレスリッパが
満月を壊さぬように泳ぎきり
ストローで水平線を持ち挙げる

先月号のお気に入り

熊谷冬鼓【くまがいとこう・青森県青森市】

ステップ1 はるくと発声しましうか
焦点の合わぬ味噌汁吹きこぼす
気まぐれにピンクの種を撒いてみる
謎解きは曖昧なままはる湿布
ステップ2 春の見取り図描きましよか

先月号のお気に入り
老人を正しく見せるラッピング 辻井洋子
ドキリとしました。せめて小きれいに見えるように。

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

ひとと逢う ルールはちゃんど知っている
ザラザラと答えられない問いばかり
大げさに笑って寒を切り抜ける
逝く人を送り桜の日は遠い
その午後の一部始終を記憶する

先月号のお気に入り
優しさでしようか日付がまた変わる 佐々木智恵子
日付が変わると今日は昨日になり、おとこになり、一年前になり、
そして過去の事になる。これを優しさと思つた智恵子さんは優しい。

坂本清乃

【さかもとぎよの・青森県蓬田村】

冬本番カラス賑やか子守り柿
雪が舞う無言の音をつれてくる
ほめ言葉買いに行きまます自分用
暇ですか問われ頷く蟻の群れ
煮詰めれば淡くなるヒゲ影は濃く

先月号の
お気に入り

笹田隆志

【ささだたかし・青森県青森市】

家族七人おにぎり八個ボクが二個
一日五食ラーメン啜り万々歳
今夜は美食サルの脳味噌シャベツト
髪を剃る計量前のチンドン屋
スッポンの首を摘まんで活ける花

先月号の
お気に入り

闇知った象の鼻からスワヒリ語 米山明日歌
闇を知る象とは作者でしょうか。どんなスワヒリ語かと
び出すのでしょうか。聴いてみたい。

須藤しんのすけ

【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

星空のディープパープルから騒ぐ
舌先で解くサクランボの暗号
唾液欲しがる彼女を今は許せます
禁断の実を齧る日の空の青
ラジオ聞く指輪外したくすり指

先月号の
お気に入り

毒づくと花柄の毛布贈られる 守田啓子
毒づくにはかなりの体力と精神力を使う。だから毛布の
暖かさは身体に、花柄は心に贈られるのだ。

瀧尻善英

【たきじりよしひで・青森県八戸市】

輪の中は粹で愉快で面白い
あの人が気になるドアの半開き
ウイルスで国を悩ますテロですか
この人を選んで今のくらしぶり
亀よりも兎の人生 ボクらしい

先月号の
お気に入り

母さんの膝の上には戻れない 村上あつこ
この世の無常を感じます。同じく城後朱美さんの「来る
時が来たのか母の紙おむつ」も…。

芝岡かんえもん

【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

美人だねカチカチハート茹で卵
さよならと言われる度に夜になる
元通りブラジャーだけを干した朝
ラッキョウは身ぐるみ剥がされ僕になる
わかれたいもういいでしょうお雛様

先月号の
お気に入り

ああ言えばこう言う新蕎麦のクセに 奈良一艘
新蕎麦はその香りに溢れて美味い。しかし、ああ言えばこう言う作者
は云々。その気許してはいけないのだ。調子に乗る奴ほどにぞこする。

城後朱美

【じょうごあけみ・福岡県八女市】

乾いてる牀一人だけの時間
ちようどいいコーヒーなんてない朝だ
満ち足りているのに円形脱毛症
動くのを止めたら死んでいくだけだ
幸せって何ギューッと抱きしめる

先月号の
お気に入り

病院に輪ゴム落ちてる屋下がり 鳴海賢治
なんで輪ゴムが落ちてるのかって？私の歩いた跡にはい
つも輪ゴムが落ちてます。悪しからず。

田久保亜蘭

【たくぼあらん・秋田県五城目町】

百均に売られたケンカ高く買う
緩まないボルト一本まだ残ス
アナログで行こう鶴嘴一丁で
コンドルは飛んで行くボクの裏山
それ盗って プーチンだけは止しなさい

先月号の
お気に入り

旅男

【たびお・青森県五所川原市】

今年こそと毎年の一枚目(白)
予約してキャンセルをして予約して(黄)
人混みの映像に年寄りの冷や水(赤)
メント・モリ冒険心が先に死ぬ(黒)
待つほどに色は重なる春紊乱(桃)

先月号の
お気に入り

食事終え洗い物終えさあ泣くよ 夏草ふぶき
準備万端、今日の分を泣いて下さい。ドラマでも見るん
でしょか、身辺の事情じゃないといんですけど。

田中薫【たなかかおる・青森県弘前市】

まぶしい青冬冬ちよつと辛いな
辛い冬顔も洗うし歯も磨く
メッセージ最期の碧羅生門
長芋は千切りでとどめを刺すわ
四回目子虎が大きくなりました

先月号の
お気に入り

幸せを種のまんまで子に渡す
わたしもそんな母でありたいナ。

斎藤泰子

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

後ずさりしながら開けた虎の年
ギザギザの今日を手早くリサイクル
猫の手が一服ばかりしてしまふ
デパ地下のおりんごおネギお利口そう
白鳥が帰るさえずるは私

先月号の
お気に入り

夜が来た私を黒く染めに来た
ピンクに染められたら眠れない？

斎藤泰子

土田雅子【ちだまさこ・青森県青森市】

カマキリのセンチメンタリテイ マジか
眠いなら白旗上げて寝ちまいな
小春日を拾い集めて徘徊散歩
『君が代』を今更ながら暗譜する
オワコンのここが私の下げ止まり

先月号の
お気に入り

夏草ふぶぎ【なつくさふぶぎ・青森県青森市】

柔らかな私を食べに来るキリン
血管が好きにしてよと波打った
君の声マナーモードになっている
捨てるものしか入っていない宝箱
親兄弟を煮沸してから腕に盛る

先月号の
お気に入り

新調した袋小路を着て歩く
小野五郎
そんな五郎さんにバツタリお会いしたいです。

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

そしてまたベークドポテトは縦社会
海へ還る日のカニカマの憂鬱
えへらえへらと熾になる飯粒のかたまり
たましいを縦書きにして竹取物語
よろたかじつてあつんだなあ〜オラも

先月号の
お気に入り

明後日は玉虫色になっている
で、明後日はカメ虫色になってたりして…
渡邊こあき

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

何様のつもりあごひげのびてゆく
株式市場ではいまだ夜明けです
ここで対策講じなければなみだ
基礎疾患あります花を摘んでます
青い花抱いて歩けば髪ゆれる

先月号の
お気に入り

シユプレヒコール日に三度のなべやかん
なべやかんに引かれました。
吉見恵子

ひとは【ひとは・青森県黒石市】

混ぜるな危険裏口からどうぞ
義理人情溺れぬように蓋をする
良い人でいたかったのに降る糞
心にも轍ができて除雪中
三回忌亡母の帽子をそつと撫で

先月号の
お気に入り

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山南市】

散らかつて街は無口になってゆく
おしまいをちゃんと見せないから続く
線いっぽん世界の端に引いてみる
また押された後ろめたさというボタン
ぼうぼうと声も話も燃えている

先月号の
お気に入り

金魚とは昔話ができそうだ
わたしは大きな木を見上げると昔話ができます。
辻井洋子

まきこ【まきこ・青森県青森市】

尻尾まで笑顔を詰めてワルでいる
月丸くわたしは尖り海は風
雨あがるいびつな虹に寄り添って
なめんなよそんな言葉もありました
おせっかいは不要ごしごし首洗う

先月号のお気に入り
電柱にかわってくれと頼まれる
変におもしろすぎます。
中前棋人

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

鏡見る会いたい人がおりますの
念入りにながめて探す妥協点
とりあえず自己満足でいいじゃない
何事も気の持ちようで永らえる
雪解けは三年分の花として

先月号のお気に入り
おみくじは中吉春の顔になる
大吉が出たら一気に夏？ってことはないだろうが、嬉しさは伝わる。
柳本恵子

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

冬道の歩み案山子に笑われた
オミクロン次の名前は何だろう
新しく見たい未来がふたつ「うふっ」
先に行つて待つてますって句箋から
幸せはちくわの穴の向こうです。

先月号のお気に入り
ふるさととは香りではなく匂いである
いいなあこの句同感です。
田中薫

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

15才で夢を探しに行つたまま
へその緒がちゃんと生きたか聞いてくる
シヨボクレタ影がノロノロついてくる
屋台骨グラグラしてる右隣
煩惱を捨てたら見えた母の悲しみ

先月号のお気に入り
遮断機が上がる忘れたことにする
忘れたことにしなくても、歩き出したら、忘れてしまします。これって健忘症？！
石橋芳山

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

得失点差で辛うじて生きてきた
へモグロビンエーワンシーの絆
四捨五入された自分を背負つてる
血液検査から眩きがポロリ
地吹雪が微かに僕の匂いする

先月号のお気に入り

宮井いずみ【みやいずみ・大阪府大阪市】

鮮やかに捌くひゅんひゅん踊る枝
夕暮れの片袖すこし濡れている
山つきの強いおんなでビビンバで
チャンネルを変えればびゅうと土埃
絆創膏はがすわ曲がりきれないの

先月号のお気に入り
帝王切開的アンミカの関西弁
安産型津軽弁なんていうのもあるのでしょうか？
奈良一艘

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

福寿草つづつてみよう一行詩
五線譜に私の春を弾ませて
干支すぎて又のぼりたし卒寿坂
冬枯れの木に咲いている雪の花
よく来たの 姉の笑顔に母匂う

先月号のお気に入り
この次はあるのだろうか年女
来年は卒寿。シミシミと実感しました。
葉閑女

むさし【むさし・青森県蓬田村】

冬型の気圧配置が続く顔
サーカスが時々やって来る仏間
今日もまた振られたのです 再起動
七十年の塵が積もっている右手
影に押され吹雪の中を歩き出す

深艘心理

病院に輪ゴム落ちてる昼下がり

鳴海賢治

(会員雑誌「無人駅」1月号より)

輪ゴムの原料は天然ゴム。自然素材であるため、製造されてからの時間経過により、紫外線や大気中のバクテリアの作用で生分解される。またゴムの性質上一定の温度を超えると溶解、液化する。

つまり、川柳独特の比喩として輪ゴムは人間の命を表している。その輪ゴムが病院に落ちているのだという。そのまま素直に解釈すれば「ある日の昼下がり病院に一つの命が落ちていた(失われた)」となるのだろうが、ここは深読みをしてみよう。作者は決してそのような意図で作句したのではないだろう。何故ならば、病院と昼下がりとあるからだ。先程の解釈であれば普通は病院ではなく、患者が入院している病棟と書くのが普通だし、人

の生死は月の出、月の入りに深く関係していると多くの人に信じられている(都市伝説の類らしいが)から、昼下がりよりもイメージ的には夜中だろう。それを敢えて病院、昼下がりとした意図は、落ちていた輪ゴムが作者自身だからに相違ない。普段から持病を抱えている作者が、今までは輪ゴムでしっかりとコントロールされていた病気の数値が、まるでタガが外れたように悪化し、きつと嘆きの言葉すら出てこなかったのだろう。それはそれはとても気怠いため息まじりの昼下がりがだったのだ(笑)

しかし、年齢と共に劣化は免れられないにしても、幸い輪ゴムはまだ切れてはいないのだ。養生さえすればまだまだ長持ちすると信じている。先輩どうぞお大事に!

墨をすする

硯の隅で



▼投句者 (36名・到着順)

安藤なみ・宮井いずみ・吉松澄子・吉田吹喜・むさし・葉 閑女・柳本恵子・芝岡かんえもん・須藤しんのすけ・渡邊こあき・城後朱美・石橋芳山・旅男・岩根彰子・米山明日歌・守田啓子・三浦蒼鬼・奈良一艘・達毘古・村上あつこ・きさらぎ彼吾句・坂本清乃・笹田隆志・ひとは・上村夢香・鳴海賢治・田中 薫・まきこ・一帆・熊谷冬鼓・真島久美子・笹田かなえ・夏草ふぶき・田久保亜蘭・斎藤泰子・まみどり

おかじようき川柳社

2月ステイホーム誌上句会

宿題『ミラー』

秋田県秋田市 一帆 選

【佳作】

鏡からラッキーマイテム渡される
 言いは分はサイドミラーに聞いてくれ
 美しすぎて合わせ鏡のハレーション
 アラビア文字様の貌が映った凸レンズ
 美人ほどその鏡には映らない
 漆黒のピアノが映し出す吹雪
 嫌われる前に見つめる三面鏡
 マジックミラーから抜けて寡黙になつていく
 逆さ富士ずつとこのまま知らぬまま
 有耶無耶にしようミラーを曇らせて
 よつて母と姿見は合同である
 ミラーガラスに守られている自尊心
 父さんもミラー図法の駒だった
 探究の奥の奥までいくミラー
 黙秘するマジックミラーだとしても
 鏡とは星の集合体である

夏草ふぶき
 宮井いずみ
 旅 男
 奈良一艘
 田久保亜蘭
 む さ し
 須藤しのすけ
 三浦蒼鬼
 宮井いずみ
 吉松澄子
 守田啓子
 宮井いずみ
 真島久美子
 旅 男
 まみどり
 む さ し

玄関の鏡は疾うにマスクして
 恨みにもポーズをつけて三面鏡
 手鏡が消防法を吹っかける
 ミラーサイトに胸までつかる雪の夜

岩根彰子
 芝岡かんえもん
 真島久美子
 米山明日歌

【五客】

親展と貼つて届いたマジックミラー
 稲村ジェーンから青春の乱反射
 都市伝説あばかれ鏡割れました
 幌馬車の詩人と落ちる春の穴
 かがみよかがみ一番狡いのはわたし

ひと は
 奈良一艘
 石橋芳山
 真島久美子
 芝岡かんえもん

【人位】

カツどんを食うマジックミラー越しの人

笹田かなえ

【地位】

老婆心ながら鏡を貸しましょう

旅 男

【天位】

ミラーボールぎしつ死ぬまで踊るわよ

守田啓子

【天位】いつまでも自分らしく生き抜く為に踊り続けたい。とかく
 気弱になる日々は元気を貰いました。【地位】余計なお世話に感謝
 します。自分の姿は気づきにくいですから。【人位】カツどんを食
 べている人は、マジックミラーの恩恵で大きな口で食べているの
 が見えないつもり。だが、明るさの状況によっては、見えますよ(笑)
 行動は隠せないと言ふことでしょう。

宿題『未』

青森県青森市 葉 閑女 選

【佳作】

タコ焼きを十個食べたら来る未来
 ロスタイム諦めるのはまだ早い
 明日を見るしつくりこないもの束ね
 未熟者ですパンの耳かじってる
 納豆の糸絡ませてまだ未完
 明日のため米一合を研いでいる
 まだ大人になりきれぬ小指が痛い
 届かない手紙をいつも書いている
 ひと掻きが足りないきみの岸辺まで
 また逢えるまだいけるかと雪女
 性格の未熟さトッポギの辛さ
 この次の出番を待っているところ
 いい友だ友達以上にはならず
 牧者には逢えないままのひつじたち
 明日こそ明日こそはと殻の中
 今も未だ黒く残っている昨日

安藤なみ
 渡邊こあき
 守田啓子
 鳴海賢治
 ひと は
 坂本清乃
 田中 薫
 夏草ふぶき
 きさらぎ彼句吾
 夏草ふぶき
 宮井いずみ
 斎藤泰子
 斎藤泰子
 達 毘 古
 熊谷冬鼓
 石橋芳山

塩辛い未来にかけろマヨネーズ

米山明日歌

未知数つていいな峠に涎掛け

岩根彰子

未開封のカルテを抱いてザラメ雪

奈良一艘

百均の未使用ナイフが2本ある

熊谷冬鼓

【五客】

実感の無い還暦がうじうじしてる
 可能性はまだ秘めたうさぎです
 雪未満震以上で来るメール
 踵には未知数という痛みあり
 また満月になりそこなつた待ちぼうけ

田中 薫
 鳴海賢治
 笹田かなえ
 米山明日歌
 きさらぎ彼句吾

【人位】

終止符が蠢く未決箱の底

三浦蒼鬼

【地位】

七十でガキでぽつんとはぐれ雲

む さ し

【天位】

とろろ蕎麦ずるり未曾有が多すぎる

守田啓子

【天位】これまで経験したことのないという警告が頻繁に使われる昨今。
 「ずるり」というオノマトベが効果的。【地位】切り上げて七十。逆恨み
 で医師を襲った事件を思わせる。【人位】終活が叫ばれるようになって
 久しいが、踏ん切りをつけるのは難しい。【五客5】下を七音にするこ
 とでうじうじ感を強調したいようだ。

宿題『自由詠』

青森県蓬田村 むさし 選

【佳作】

自惚れを覚られぬよう伸ばす髭
 くらめんこコロナ泣き顔オミクロン
 わたくしの嫉妬につける湿布薬
 オメごとば抱いでまりてえく喰てまりてえ
 捨ててきた過去が時々ノックする
 転がった豆と鎮痛剤と人
 葛藤をまた封筒に入れてる
 モカ香る隣の席は空いたまま
 まじらないようにノウコウセツシヨクシャ
 毒吐けば残った毒がお世辞言う
 父さんの遺品は風の音ばかり
 正直に話したあとは眠るだけ
 つま先の濡れたまんまで春を待つ
 世の中がホワイトアウトしちまった
 雪にくつきりとさよならの足跡
 地獄へのボタンだろうか押してみる

葉 閑女
 奈良一艘
 芝岡かんえもん
 奈良一艘
 村上あつこ
 真島久美子
 真島久美子
 ま き こ
 真島久美子
 米山明日歌
 鳴海賢治
 米山明日歌
 渡邊こあき
 きさらぎ彼句吾
 ま き こ

参加者募集

川柳吟行会「ぽ」

明日から会場のアウガが休館となるギリギリの
 1月19日（水曜日）の午後2時半より第32回吟行会
 の合評が行われました。青森市は10年来の大雪で、
 しかもコロナウイルスの猛威が吹き荒れるなか、参
 加者は4名でしたが、出句者20人、句数60句に
 ついて感想も含めてゆるやかに合評をおこないま
 した。課題の「香」は難解のようで、参加者がそれ
 ぞれ自句の作句に苦労されたと表明がありました。
 鉄のニオイとジャンバルジャン、芹の青、東中野の
 四畳半、一つ飛ばそう梅香る、等々の句について意
 見と感想がだされました。参加者が少ないためいっ
 もより早めに合評会は終了しました。（隆志）

【11点】特×5・佳×1
 歳月は鉄のニオイだジャン・ヴァルジャン 岩根彰子

ひねくれる準備 明日もカレーです
 閉経が過ぎて翼が生え揃う
 狙撃兵でした日暮れの焼き芋屋
 よく出会う同じ顔した他人たち

須藤しんのすけ
 ひ と は
 三浦蒼鬼
 夏草ふぶき

【五客】

笑った後の減ったものが多すぎる
 振り向いた羊の顔を見ましたか
 友達が知人に変わるリトマス紙
 夕焼けを酔味噌で和えてまた明日
 パンの耳らしき男が落ちていた

坂本清乃
 宮井いずみ
 一 帆
 ひ と は
 奈良一艘

【人位】

生まれた時から添い寝してたんだ 死

きさらぎ彼句吾

【地位】

濁点になつたわ東尋坊の先つちよ

岩根彰子

【天位】

墨をする硯の隅で不倫する

城後朱美

「すみ」と「する」を2回ずつ使っている。「墨」と「隅」、そして「する」。「する」を漢字で書けば「磨る」と「為る」である。
 言葉で遊んでいる。器用なものだ。
 「墨をする硯」ではなく、「墨をする」で一旦切って読んだ。
 硯の四隅で不倫しながら磨った墨は複雑な色で不思議な線を引くことができるのかもしれない。

課題『香』

【吉見恵子】「歳月は鉄のニオイだ」に闘争心が感じられた。心を入れ替えたジャン・ヴァルジャンのように頑張つて来たのかな。【啓子】ハングリーな人生に鉄のニオイはうまい表現！そして着地も決まった。【文音】固有名詞、ジャンバルジャンを鉄のニオイとしたところに新鮮さを感じました。ニオイの片仮名表記も上手いと思います。
 【州花】なにやら懐かしい鉄の香りとジャン・ヴァルジャン。今思い出せば青春は鉄だったかも。【五郎】鉄の匂いに着目したことにひかれた。鉄鎖・鉄格子の錆でこの世の苛酷さを表わした。【冬鼓】鉄のニオイの表現に惹かれたが下5に付き過ぎ感があつて佳作とした。

【11点】特×4・佳×3
 まだ何かできるだろうか芹の青 吉見恵子
 【いずみ】独特の香りとみずみずしい色がぱつと目に浮かぶ句。「まだ何かできるか」という逡巡との対比がい

いい。【さち】気力や体力が衰えて来た寂しさの中、なにができるかと自身に問いかけている。出来る出来ると声援を送りたい。共感しました。【冬鼓】刻むと香り立つ芹。鍋に入れると鮮やかな緑に。自分も変わるだろうかと自問自答する作者。芹の青がいい。【規子】芹って確かに目立たないけど、雑煮には無いとさびしいものですね。私も芹のようなほどほどの存在感のある人になりたいなあと。【こあき】これからの人生のどこかでまだ香りづけできるだろうか。【一艘】芹は晩秋から冬が旬の野菜。人間にすれば高齢者。その青の部分が自問自答している。【旅男】芹の青でもう香ります。前向きな姿勢を暗示させます。

【5点】特×2・佳×1

初雪はすりりんごから始まりぬ

吉見恵子

【朱美】トンネルを抜けると・・・そんな光景が浮かんできそうです。【彰子】すりりんごは健康なときには食さないもの。心身の不調と初雪の頼りなさが響き合っている。【文音】初雪は始まりぬ。香たつ林檎に作者の冬を迎える心構えが伝わってきました。

という歌があったのを思い出してしまった。雨の匂いが巧みに薫る。

フリージアと東中野の四畳半

滋野さち

【吉見恵子】きつちりと締まった句。つましやかな独り暮らしの中にも「フリージア」の黄に未来への希望が感じられた。【いずみ】学生時代の追憶だろうか。おぼろげになった映像にフリージアの黄色と香りだけがくつきり。さてこのフリージアは誰が生けたのだろう。【かなえ】「神田川」だなあと。フリージアの香りが慎ましくも幸せ。【冬鼓】一輪挿しのフリージアは自分へのご褒美。あの四畳半があつて今がある。作者の原点。

【3点】特×1・佳×1

空っぽの日々へすだちを絞り切る

宮井いずみ

【かぶぶき】感情が止まったようなところに、きりりと香るすだちの目の覚めるような刺激が心地よい。【柳本恵子】コロナ第六波の毎日にスダチの香り、酸っぱい味。緑の色は希望の色ですね。

命日だよとキンモクセイが囁いた

城後朱美

【5点】特×1・佳×3

群れからはスーツと抜けるジャスマンティー

奈良一艘

【かなえ】ジャスマンティーを主役にしての構成が見事。抜けた後の残り香も漂って、秀逸。【朱美】群れから抜きたい時ありますよね。紅茶ですね。【さち】孤は寂しい。孤は素晴らしい。自分を見つめよう。【ふぶき】主張の少ないジャスマンティーだけど、群れとは別なところに立てる強さを感じた。

【4点】特×1・佳×2

珈琲を淹れる のんびり生きなくちゃ

守田啓子

【夢香】こちらまで、珈琲の香りが漂ってきているような感じがいたします。【州花】あたふたとコーヒーを淹れて飲み忘れることがある。【隆志】珈琲を淹れてのんびり生きたいものです。

【4点】佳×4

微笑みと雨のにおいのするシャツと

宮井いずみ

【柳本恵子】ドラマが始まりそうな予感がします。【夢香】若々しさを感じております。【さち】ストーリーはこれから始まる期待感。【一艘】昔「部屋とYシャツと私」

【二艘】誰の命日だとは全く触れてはいませんが、キンモクセイは絶対母さんの匂いに違いない。【規子】どうしても選ばずにいらなかった一句

やることを一つ飛ばそう梅香る

守田啓子

【こあき】梅の香が心の余裕を生んだ。そんなに頑張らなくてもいいんだよと言われたような気がした。【旅男】梅の香は人を止めます。ふとした日常の機微、自然体がいいですね。

残り香をたどる やっぱりに辿りつく

熊谷冬鼓

【旅男】上手い。ドラマが始まる。読み手が作るドラマチックな脚本が提示された。「やっぱり」を辿るストーリーを始めます。【かなえ】「やっぱりに」が痛々しい。時に香りは謎を秘めている。

【3点】佳×3

図書館の好きな香りに逢いに行く

上村夢香

【啓子】アノ匂い。条件反射で自分だけの世界に浸れる極上の時間。【州花】古本屋と図書館は似ているようで全然違うのはなぜだろうとふと思った。【規子】本をめ

くる時の図書館独特のあの匂い私大好きです。

【2点】特×1

香水をふって赤鬼手なすける 柳本恵子

【紫の園】サラッとしている句だが、香水で酔わせて、節分にやって来る赤鬼を手なすければ、家には入ってこず、今年一年無事に過ごせる余裕がある感じを受ける。

たっぷりと生姜をすって今日終る 守田啓子

【隆志】一日の終わり方として、生姜をたっぷりすって、気分をすつきりしたいものです。

生きようぞ爪の先までココシヤネル 吉田州花

【柳本恵子】ココシヤネルでお洒落して街を闊歩。いつか来るそんな日を待ち望む毎日です。

【2点】佳×2

肩ひものツイットと正してココ・シヤネル 福田文音

【いずみ】ココシヤネルの措辞でスーツと香水が浮かぶインナーの肩ひもをツイットと直すという動きが面白い。【彰子】ツイットと正してに作者の心情がよく現されている。

十和田たてがみ川柳会 一月（誌上）句会

【参加者】磯島雅男・漆館ミノリ・木村奈生美・熊谷冬鼓・斉藤蛙井・佐藤まさあき・城後朱美・瀧尻善英・中村英三・福田芳記・村上昌子・守田啓子・高田幸柳

■課題 『煽てる』 村上 昌子 選

【平抜き】

あちこちの痛み煽てて年を取る 磯島 雅男
はまり役おだてととらず引き受けた 福田 芳記
目の前に人參下げる介護箸 磯島 雅男
好記録大学駅伝ほめ指導 中村 英三
煽てには上手に交わす二枚舌 木村奈生美
さりげなく煽て本音を言わせる手 漆館ミノリ
煽てられ満更でなくマイク取る 佐藤まさあき
窓際に座り煽てること知らず 城後 朱美
煽てられ撥られてる自尊心 佐藤まさあき
おだてには乗らない 木には登りたい 熊谷 冬鼓
まだ元氣まだまだ元氣ふくらはぎ 熊谷 冬鼓

樟脳の匂い纏ってくる形見

滋野さち

【ぶぶき】樟脳のおいって懐かしく昔を思い出す気持ちになりますね。【五郎】形見の着物を着て立っている姿が目に見えかんでくるような作り方。

【1点】佳×1

元日に開いた百合は雪の白

渡邊こあき

地吹雪に匂いをつけた木守柿

小野五郎

香り立つ雪に朝刊のあしあと

吉田州花

オミクロンと詰将棋する香車

笹田隆志

各駅でやって来たのね蠟梅香

岩根彰子

逢いたさはつかまえられぬ花火の香

吉田州花

フアプリーズの匂いに噎せる雪おんな

熊谷冬鼓

結納に実家のおいを忍ばせる

夏草ぶぶき

甘やかな香り南国の黒い月

宮井いずみ

素通りができずに入るひとり焼き肉

渡邊こあき

ハツカ飴母の乳房がツンと来た

岩根彰子

煽てもデンと動じぬ馬の耳

高田 幸柳

煽てられ苦海もなんなく泳ぎます

斉藤 蛙井

煽てればアンパンマンになれるかも

瀧尻 善英

ほほ笑みの煽てに乗った泥の舟

木村奈生美

【秀逸】

煽てには弱い財布の紐ゆるむ

瀧尻 善英

猫なでの声にウキウキ雪かきへ

高田 幸柳

【特選】

煽ても合わなくなった鍋と蓋

守田 啓子

■課題 『大きい』

佐藤まさあき 選

【平抜き】

ルーペでも心の奥は読み込めず 木村奈生美
デカイ顔ノミの心臓見せません 村上 昌子
ポリシーは寄らば大樹の永田町 高田 幸柳
古里も記憶も崩す大地震 木村奈生美
窓際で大きな空を見ている 佐藤まさあき
大の字に寝た草原へ青い空 瀧尻 善英
大きめのマスク重ねて検診日 熊谷 冬鼓
蚤としてみれば心臓 どデカイぞ 福田 芳記

□ 2022.05.22 筒井祥文追悼「らくだ忌」第1回川柳大会

【とき】2022年5月22日(日)午前10時開場 出句締切午前11時30分【ところ】ラポール京都(京都労働者総合会館)2階大ホール 阪急京都線・西院駅より徒歩約7分 〒604-8854 京都府京都市中京区壬生仙念町30-2 TEL.075-801-5311【開会】午後1時【兼題】「芸」きゅういち選(茨木)「ジャズ」蟹口和枝選(京都)「水」兵頭全郎選(高槻)「自転車」森田律子選(京都)「笑」井上一筒(大阪)「蓋」樋口由紀子選(姫路)謝選「亀」1句出し くんじろう選(大阪) ※各題2句出し・謝選のみ1句出し 各題に秀句賞【会費】当日・欠席投句共2,000円 定額小為替・現金 ※切手不可 発表誌呈 ※すでに欠席投句をお預かりしている方は大会当日、受付にお申し出ください。■欠席投句宛先 〒567-0057 大阪府茨木市豊川1-17-6 「らくだ忌川柳大会」欠席投句 森茂俊宛 ■欠席投句締切 令和4年4月30日必着 投句料同封の上、A4用紙(紙質自由)に簡条書き楷書あるいはパソコン(ワープロ)打ち可能・その際連絡先お名前(雅号)住所・電話番号・メールアドレス(お持ちの方)を忘れずにお書き入れください。■懇親会 5,000円 定員40名・先着順 午後5時~(四条「天狗」会場へは係員がご案内致します) ■お問い合わせは 「らくだ忌」川柳大会実行委員会事務局 〒546-0043 大阪市東住吉区駒川1-10-22 長屋ぎやらりい・くんじろう内 TEL090-5125-7905 kunjiro-t@ezweb.ne.jp

□ 2022.05.31 ✕ 「不浪人賞・年度賞」候補句募集

第64回「不浪人賞」・第52回「年度賞」【応募資格】青森県在住者【応募料】青森県川柳連盟加入吟社に所属している方は無料。無所属の方、また連盟だより(結果)の個人送付希望者はその旨明記のうえ百円切手を同封ください。【対象作品】2021年1月~12月に発表された作品。「不浪人賞」・「年度賞」のどちらか、または両方の応募可(2賞への同一句の応募は不可)【応募用紙】所定用紙またはA4の用紙を使用し、楷書で不浪人賞(3句)、年度賞(5句)を分け、それぞれに住所、氏名、電話番号を記入ください(清記選)【締切】2022年5月31日(当日消印有効)【発表】大賞の速報を各柳誌に掲載。結果詳細は「青森県川柳連盟だより」にて。なお、連盟だよりの送付ですが、基本的に所属吟社に一括送付致しますので応募の際は所属吟社記入のこと。【表彰】2022年9月23日(祝)川柳忌黒石川柳大会にて(予定) *各賞1位に賞状と記念品【送り先】〒038-3288 つがる市木造出来島33 青森県川柳連盟「不浪人賞・年度賞」係宛【選者】★不浪人賞(6名) 渡辺梢(埼玉)・赤松ますみ(大阪)・鎌田京子(宮城)・新家完司(鳥取)・島田駱舟(千葉)・野沢省悟(青森)★年度賞(10名) 長谷川酔月(秋田)・熊谷岳朗(岩手)・雫石隆子(宮城)・山口まもる(山形)・小林左登流(福島)・千島鉄男・むさし・工藤青夏・笹田かなえ・田鎖晴天【連絡先】青森県川柳連盟事務局 濱山哲也 ☎080-5574-9297【主催】青森県川柳連盟

若き日の描いた夢はでかかった
 いつだって兄は大きい方を取る
 今になり大空の糸切れた風
 故里想い大きなリンドゴかじつてる
 大仏を見ているだけでなる笑顔
 月を観る人の心の大きさよ
 大きい箱選んでいつも悔やんでる
 【秀逸】
 てっぺんもどん底も知る大きな手
 ポジティブに苦勞を苦勞とせぬ大器
 【特選】
 言い訳に大きな夕陽持つていく

中村 英三
 城後 朱美
 漆館ミノリ
 斉藤 蛙井
 漆館ミノリ
 福田 芳記
 城後 朱美
 守田 啓子
 瀧尻 善英
 齊藤 蛙井
 瀧尻 善英
 守田 啓子

瀧尻 善英 選

思い出のおもちゃ心の隅に置く
 押し入れに眠ったままのおもちゃ箱
 五十肩のアトムが眠るおもちゃ箱
 怪獣が押入れ隅で眠ってる
 イブの夜ブリキのおもちゃ騒ぎ出す
 メンコには土の臭いがあつたよな
 お店屋さんごっこはいつもお客さん
 引退のおもちゃにもある自尊心
 【秀逸】
 もふもふの猫を一日抱いている
 駄菓子屋の奥に昭和の宝物
 【特選】
 お手玉の中は小豆と夕あかね
 熊谷 冬鼓
 守田 啓子
 高田 幸柳
 守田 啓子
 高田 幸柳
 熊谷 冬鼓
 守田 啓子
 高田 幸柳
 熊谷 冬鼓

【十和田たてがみ川柳会3月(誌上)句会案内】
 【課題・選者】(各三句)『消える』久保あざみ選／『記者のペン』斉藤蛙井選／『ギザギザ』瀧尻善英選【締切】令和4年3月18日消印有効【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72 高田幸柳あて

■会費拝受【1月受付分】 ※太字は新会員

安藤なみ(愛知県) / 田久保亜蘭・一帆(以上秋田県) / 城後朱美(福岡県) / 藤田めぐみ(東京都) / **達毘古**(富山県) / 吉田州花・菊池京(以上青森市) / 旅男(五所川原市) / ひとは(黒石市) / 笹田かなえ(八戸市) / 白戸まつ子(つがる市) / 吉田吹喜・田中薫(以上弘前市)

■おかげょうき川柳社会員募集中!

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名:おかげょうき川柳社

→会費:6,000円(1年分)

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759
〒039-3502 青森市久栗坂浜田 87-2

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

終着駅 Sin

◆「ねじまき#8」が届いた。いつもいるんな方から送ってくれていて、筆不精な性格のため、お礼を言うタイミングが掴めず、「うろうろ」と思っているの、この場を借りて(なぜこの場?)「いつもいつもありがとうございます(笑)◆「ねじまき」はいつも思うのが、誌面から楽しさが見えてくるところがなんかキラキラしている一冊でもある。今回の「17人の選者による十七題のネット句会大賞選考会」も楽しく拝読した。多数決ではなく、合議制での大賞を決めるというのは、他の短詩形の世界でもよく見られる光景で、選考の透明性や妥当性を担保する方法でもある。残念な部分といえば、もう少し一次投票で接戦だったら、議論にも少し熱量が出てきたのかな

と思う◆この合議制については、私も十佐一賞などで導入出来ないものか10年前くらいに考えたこともあった。ただ、集まるとなるとなかなか予算的なものもあったし、今のようなデジタルに対応しきれていない現状もあった。ただ一方で、議論して結果が変わるのだろうかという懸念もあった。読みの部分と、嗜好的な部分のバランスで特選にしているのだから、なかなか自分の特選よりこっちがいいねってなるものかどうか…と◆今は、おかげょうき川柳社のスタッフ会議もリモート会議になっているように、十佐一賞の選者にオンラインで出席していただき、そこでの討論をYoutubeで生配信なんてのも、面白そうかなと秘かに思うわけである(笑)◆Sin

おかげょうき川柳社 作品募集案内

□ 2022.03.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(5月号分)

【締切】3月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】5/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2022.04.02 おかげょうき川柳社本社4月句会

【時】4月2日(土)午後1時~【所】アウガ5階小会議室【投句締切】4月1日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『メッセージ』/『芽』/『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句「形に関する句」1句【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/>【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com(守田啓子) ■句会参加の際は新型コロナ感染対策に協力願います。

□ 2022.04.13 「川柳吟行会 ぼ」4月句会

【投句締切】4月13日(第2水曜日)【題・投句数】『風』3句【合評会】4月20日(第3水曜日)アウガ5階で14:30~予定【投句先】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方なら会員以外でも参加可。

□ 2022.04.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(6月号分)

【締切】4月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】6/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



おかじょうき川柳社：誌上句会

0 - OKAJOKI ZERO LINE - 番線

課題と選者（2句詠・共選）

題：『動』

7/31 〆切

選者

ひとり静 (奈良県)

むさし (青森県)

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/toku/0line.html> へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。



【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品（2句まで）」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号（ふりがな）」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、**守田啓子宛**にメール送信してください。＜送信先アドレス：moriko@okajoki.com＞

投句料（※おかじょうき川柳社会員は無料です。）

1,000円（発表誌呈） *発表誌の送付をもって、投句料受領したものとさせていただきます。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。